

# とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために 授業改善に向けた3つの視点 Vol.2 ～学習評価を踏まえた授業の展開～

平成30年3月 栃木県教育委員会

本資料では、「とちぎの子どもの『確かな学力』向上のために 授業改善に向けた3つの視点」(栃木県教育委員会 平成27年11月)に沿った授業改善の実効性を更に高めるために、学習評価を踏まえた具体的な取組について提案します。日々の授業改善にお役立てください。

## 》 授業改善に向けた3つの視点

**視点1** 授業の**目標(めあて・ねらい)**を子どもたちに示すこと

**視点2** 授業を**振り返る活動**を行うこと

**視点3** どの子にも**自分の考えを書く習慣**を付けさせること

## 》 質問紙調査結果の比較

授業の目標(めあて・ねらい)の提示や振り返る活動の実施状況については、児童生徒、学校のそれぞれについて回答結果に改善が見られます。その一方で、児童生徒と学校の捉え方には、依然として差があることが分かります。

### 視点1 授業の目標(めあて・ねらい)を子どもたちに示すこと

児童生徒：授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか  
学校：授業の中で、目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れまし  
たか

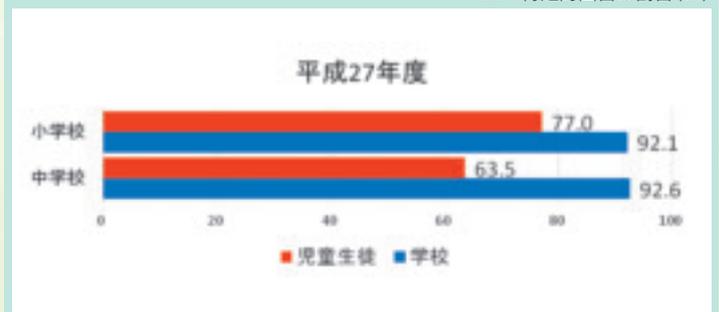
※ 「はい」と回答した割合(%)



### 視点2 授業を振り返る活動を行うこと

児童生徒：授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか  
学校：授業の最後に、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れまし  
たか

※ 肯定的回答の割合(%)



平成27年度・平成29年度 全国学力・学習状況調査(栃木県)

授業においては、単元を通して身に付けさせたい力を明確にした上で指導に当たり、児童生徒の学習状況を適切に評価することが必要です。このことは単位時間の指導においても同様です。そのため、日々の授業実践に当たっては、学習意欲の向上や学習内容の定着に向け、「学習評価」に留意しながら、「3つの視点」を踏まえて授業を構想することが大切です。そこで、本資料では、単位時間の授業について、「導入」「展開」「終末」の各場面における課題のある事例を示しながら、改善のポイントについて提案します。

# 「目標(めあて・ねらい)」を示す場面

学習意欲を高めたり、本時の見通しをもたせたりしていますか。

## ① 教師が一方向的に「ねらい」を示している事例

例 小学校理科 **ねらい** 方位磁針の正しい使い方を身に付けよう。

評価規準 方位磁針の適切な操作方法を身に付け、観察するものの方位を調べることができる。

before

方位磁針ってどのような器具かしら？



今日の授業では、方位磁針の使い方を勉強します。では、「ねらい」をノートに書いてください。



### 【課題】

上の例では、教師が一方向的に「ねらい」を示しており、児童生徒が、これまで学習した内容とのつながりを意識することができていません。「ねらい」を示す活動においては、既習内容とのつながりを意識させ、どのように学習を進めていくかなどの見通しをもたせることが大切です。

after

導入では、前時の学習内容とのつながりを大切にしたい。

前の時間では、影ができるとき、太陽はどこに見えるのかについて学習してきました。観察を通して、どのようなことが分かりましたか。



太陽は影の反対側に見えるということが分かりました。



そうですね。それでは、時間がたつと影はどのように動くのでしょうか？ 次の時間では、方位を調べながら、影の向きと太陽の位置について、観察したいと思います。そこで、今日は、方位を調べる器具（方位磁針）の使い方について学習します。



「ねらい」を示すことは、児童生徒の学習意欲を高めたり、本時の学習をどのように進めていくのかなど、見通しをもたせたりするための一つの手段であり、示すことそのものが目的ではありません。

教科の特性や学習内容を踏まえて、児童生徒の体験と関連付けたり、これまでの学習内容を想起させたりするなど、「ねらい」の示し方を工夫することが必要です。

# 展開の場面

「ねらい」の達成につながるよう、明確な指示や発問をしていますか。

## ② 指示や発問があいまいな事例

例 中学校社会科 地理 **ねらい** アジアの国々の産業の発展について考察しよう。▶

評価規準 ▶ 産業が農業中心から工業中心に変化していったことを、複数の資料を関連付けて考察することができる。

before

資料を見て、分かったことを書いてみましょう。



何を書けばよいのだろう？  
とりあえず、タイのことについて書いておこう。



2014年、タイでは機械類の割合が1番多く、自動車が2番目に多いです。



三つのグラフから分かることを、まとめて書いてほしかったなあ。



### 【課題】

上の例では、生徒が資料について何をどのように考えればよいか示されていません。評価規準を踏まえて、複数の資料を関連付けてどのような視点で考えればよいかなど、指示や発問を工夫することが必要です。

after

三つの国の輸出品の変化を読み取らせ、共通する内容から、アジアの国々で工業化が進んだことについて考えさせたいな。

資料を見て、どんなことがわかりますか。三つの国の輸出品の変化や共通する内容に着目して考えてみましょう。



学習課題を提示する際には、「ねらい」や評価規準を踏まえ、明確な指示や発問をすることが大切です。そうすることで、児童生徒の主体的な取組を引き出すとともに、学びを形成的に評価しながら、指導の充実を図ることができます。

# 身に付けさせたい力に基づいて、ワークシートを作成し活用していますか。

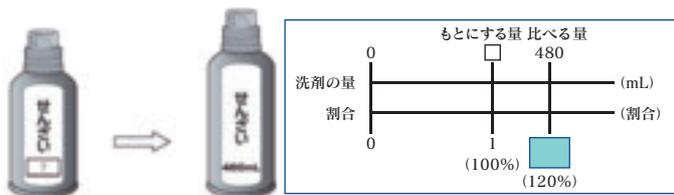
## ③ 身に付けさせたい力を育てる上で、ワークシートの作成や活用に課題が見られる事例

例 小学校算数科 **ねらい** もとにする量を求める方法を考えよう。

評価規準 数直線や関係図などを用いて、比較量と割合から、基準量を求める方法を考えている。

before

**問題** 家で使っている洗剤が、20%増量して売られていました。増量後の洗剤は480mLです。増量前の洗剤の量は何mLですか。



20%増量

情報を整理し、数量関係について、思考する力を育成したいわ。

今日は、ワークシートの数直線を使って考えてみましょう。

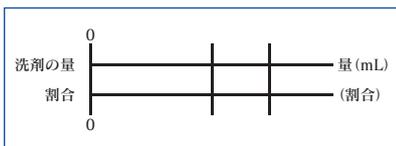


100%が1だから、120%の ■ は、1.2になりそうだな。

### 【課題】

上の例の児童は、比べる量に1.2と書くことができますが、数量の関係を正しく理解できているとは限りません。例えば、2本の数直線だけを与えて、問題の文脈から、基準量、比較量、割合について考えさせるなど、児童のつまずき等の状況を把握しながら、授業を展開することができます。

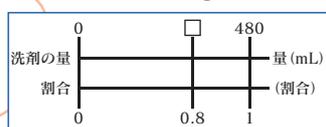
after



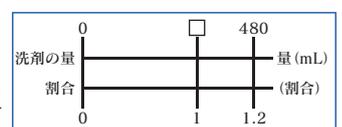
数直線だけを示して考えさせることで、数量関係についての理解を深めさせることにしよう。

ワークシートにある数直線を使って考えてみましょう。

20%増量した量が480mLだから、増量前は80%で0.8になるかな。



増量前を□とすると、20%増量後の480mLは120%になるわ。



みなさんの数直線の表し方には違いが見られるようです。どのように考えて数直線に表したのか、グループでお互いに説明してみましょう。

ワークシートの活用は、「ねらい」を達成するための一つの手段です。ワークシートを活用する際には、児童生徒の実態を踏まえて、身に付けさせたい力を育成することができるよう、工夫して作成し、効果的に活用する必要があります。そのため、評価規準と照らし合わせて、ワークシートでは何をどこまで示せばよいのか、吟味することが大切です。

# 話し合いなどの言語活動を一人一人の学びにつなげていますか。

## ④ 話し合いが、一部の子ども意見だけで進んでしまっている事例

例 小学校国語科

**ねらい** 登場人物の気持ちが大きく変化したところについて話し合い、自分の考えをまとめて書く。

評価規準 ▶ 登場人物の気持ちが大きく変化したところについて、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像して読んでいる。

### before

物語の中で、登場人物の気持ちが大きく変化したところはどこですか。また、どうしてそこだと考えたのですか。グループごとに話し合いましょう。



私は、Aのところだと考えました。理由は、～からです。



僕も同じで、Aのところだと思いました。



・・・僕も同じです。



みんなの意見をまとめると、このグループは、Aのところがいいですね。

理由は違うのだけれど、まあ、いいかな。

本当はBの部分だと思ったけれど...

### 【課題】

上の例では、話し合いの場面で、一部の子ども意見に流され、多様な意見が引き出されないままグループの意見としてまとめられてしまっています。話し合い活動を行う前に、教師が、話し合うことの意味や目的を伝えることが大切です。

### after

話し合いでは、友達の意見と自分の意見とを比較しながら考えさせて、一人一人の考えを深めさせたいわ。

物語の中で、登場人物の気持ちが大きく変化したところはどこですか。また、どうしてそこだと考えたのですか。まず一人で考えて、その後、グループごとに話し合います。その際、友達の意見と自分の意見を比べ、同じところや違うところなどを考えましょう。



〇〇さんと同じように、僕もAのところですが、でも、理由は違って、～だからです。



みんなはAだと言っているけれど、僕はBだと思います。なぜなら、～だからです。



このグループでは、AとBという意見が出ましたね。また、同じAでも、理由が違って、これらの違いについて、もう少し話し合ってみましょう。その後で、自分の考えを書いてもらいます。

話し合い活動を行う際は、評価規準を踏まえて、話し合いの様子を的確に見取り、それを指導に生かすことが大切です。話し合い活動は、「ねらい」を達成するための一つの手段であり、多様な意見に触れることで、自分の考えを深めさせることなどを目的として行います。話し合い活動を通して気付いたことや分かったこと、あるいは全体での発表で気付いたことなどを、再び個に戻し、一人一人に考えさせることで、児童生徒の思考を更に深めることが重要です。

# 終末（まとめ）の場面

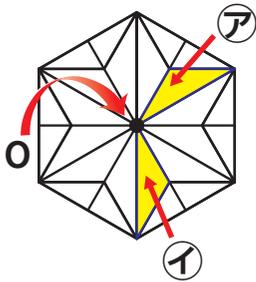
子どもの考えを生かして、学級全体でまとめを共有していますか。

## ⑤ 教師が一方向的にまとめをしている事例

例 中学校数学科 **ねらい** 回転移動の方法を、数学的な用語を使って説明しよう。▶

評価規準 ▶ 回転移動の方法について、数学的な用語を使って説明することができる。

before



問題

三角形②をどのように移動させれば、三角形①に重ね合わせることができるでしょうか。

今日の授業のまとめをします。回転移動の方法を説明する際のポイントをノートに書いてみましょう。



回転の中心と角度が必要だわ。



回転の角度と方向が必要だな。

それでは、先生がまとめますので、自分が書いたものと比べてみましょう。回転移動については、3つのポイントがありますね。1つ目は、回転の中心。2つ目は……。



### 【課題】

上の例では、回転移動の方法の説明について、生徒に考えさせているにもかかわらず、教師が一方向的にまとめてしまっています。生徒が学習内容を整理するためには、教師が生徒の考えを生かしながら、まとめさせることが大切です。

after

#### 【回転移動の3つのポイント】

- ①回転の中心
- ②回転の方向
- ③回転の角度

回転移動の3つのポイントについては、確実に押さえないな。



ノートに書いたことを基に、みんなでまとめていきましょう。回転移動を説明する際は、どんなポイントがありますか。



回転の中心と何度回転させたかが必要だと思います。



2つのポイントを発表してくれました。ポイントは、この2つでいいですか。

もう1つあります。どちらの方向に回転したかも必要だと思います。



「終末(まとめ)」は、「ねらい」の達成に向けて、学習したことを本当に理解しているか確認する活動です。学習したことを児童生徒に書かせたり、書かせたことを相互に確認し合わせたりすることにより、自分の不十分な部分に気付かせたり、学びを確認させたりすることができます。その際、教師が評価規準を踏まえて、児童生徒の考えを生かしながら、学級全体でまとめをすることが大切です。

# 終末（振り返り）の場面

「ねらい」とのつながりを意識していますか。

## ⑥ 本時の「ねらい」を踏まえていない振り返りの事例

例 小学校理科 **ねらい** 方位磁針の正しい使い方を身に付けよう。

評価規準 方位磁針の適切な操作方法を身に付け、観察するものの方位を調べることができる。

before

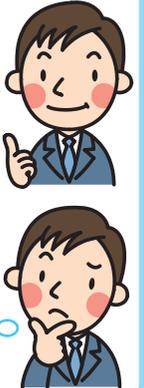
今日の授業を通して分かったことを振り返り用紙に書きましょう。

### 【振り返り用紙】

方位磁針で方位を調べることができることが分かりました。また、グループで問題を出し合って、みんなと方位を調べることができて楽しかったです。



振り返り用紙に方位磁針の使い方が分かったと書いている児童は多いけれど、児童一人一人が適切な使い方を確実に習得できているのだろうか。



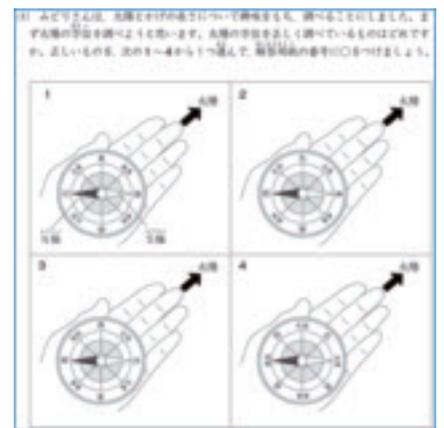
### 【課題】

上の例では、振り返る活動において、児童は感想を書いており、「ねらい」を踏まえた振り返りにはなっていません。振り返る活動を通して、何ができるようになったのか、何が分かったのかを児童に具体的に実感させることが大切です。

after

「ねらい」を踏まえて、振り返る活動では、この問題を使ってみよう。

今日の授業の「ねらい」は、「方位磁針の正しい使い方を身に付けよう。」でした。振り返る活動では、このプリントを使って、今日の学習を確認してみましょう。



方位を調べるときには、まず、方位磁針のN極の針を北に合わせるから、この場面だと1番だわ。

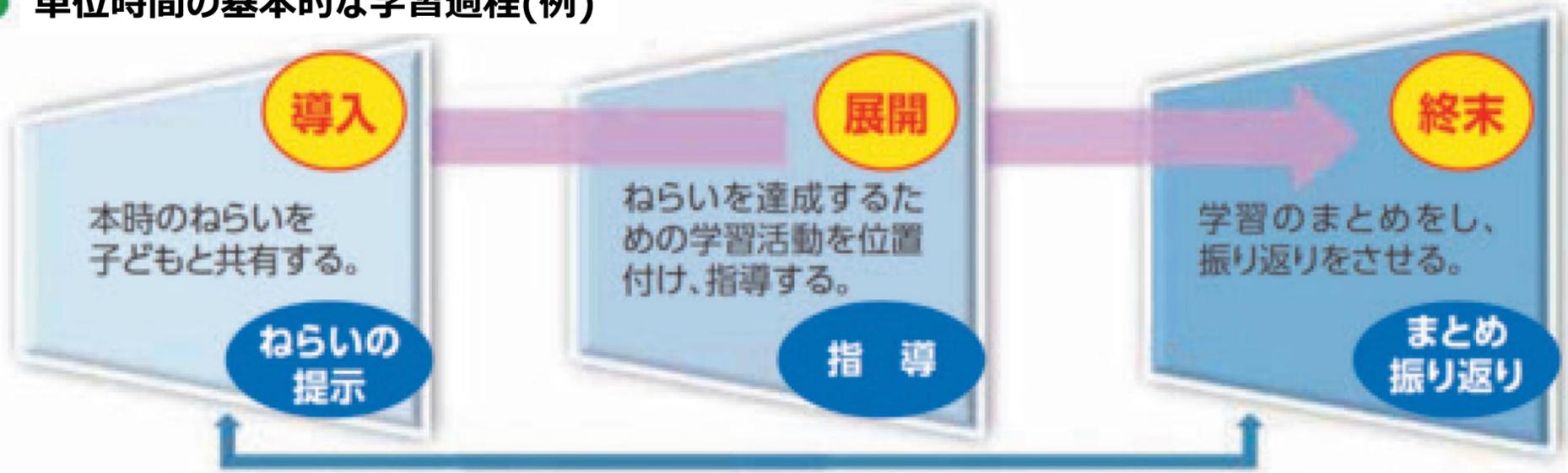
振り返る活動は、児童生徒にとって自分の学びを評価する活動です。この活動を通して、授業の前後で、自分の考えがどのように変わったのか、何が身に付いたのかなどを自覚させることが重要です。そのため、評価問題を解かせたり、条件を示して学習したことを書かせたりするなど、振り返る活動を工夫することが大切です。

## 「3つの視点」と「学習評価」

本資料の事例で示したように、「ねらいの提示」「まとめ・振り返り」は、その活動を行うこと自体が目的ではありません。また、「3つの視点」のうち、「どの子にも自分の考えを書く習慣を付けさせること」についても、「ねらい」の達成に向けた一つの活動であることを踏まえて指導に当たることが重要です。

下の図のとおり、「ねらいの提示」「指導」「まとめ・振り返り」は、相互につながっている必要があります。各段階で「ねらい」及び、その達成の状況を見取る「学習評価」を意識することで、授業に一貫性をもたせることができます。

### ● 単位時間の基本的な学習過程(例)



「ねらい」と「学習評価」を意識することで、授業に一貫性をもたせることができます。

「主体的に考え表現できる子ども」を育てるために 栃木県教育委員会（平成26年度）

## 学習評価を通じた学習指導の充実

学習評価は、目標に準拠した評価として実施されています。この学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要です。

県教育委員会では、「指導と評価の一体化」の観点から、「確かな学力」を身に付けさせるために必要な「『分かる授業』の五つのポイント」を示していますので、「3つの視点」と併せて授業づくりの参考にしてください。

### 「分かる授業」の五つのポイント

- 1 ねらいが明確になっている授業 【ねらいの重点化・焦点化】 **視点1との関連**
- 2 ねらいを実現するための手だてが明確になっている授業 【教材、指導方法・指導体制、学習課題等の工夫】 **視点3との関連**
- 3 児童生徒一人一人の実態等に応じた指導がなされている授業 【個に応じた指導】 **視点2との関連**
- 4 ねらいが実現されたかどうか適切に評価されている授業 【適切な評価】 **視点2との関連**
- 5 評価が次の授業改善に生かされている授業 【指導に生きる評価】 **視点2との関連**

「学校力」・「教師力」を高めよう 栃木県教育委員会（平成19年度）

※ 「3つの視点」との関連については、特に関係の深いものを示しています。